



インドネシア

17 ムラワルマン大学 整備拡充事業

熱帯雨林の多い東カリマンタン州において、ムラワルマン大学農学部、林学部、理学部の施設・設備等の整備・拡充を行うことにより、専門的人材育成および調査・研究の促進を図り、もって熱帯雨林地域における天然資源の開発・利用および環境保全に寄与する。

承諾額/実行額 30億6,200万円／27億9,600万円
 借款契約調印 1995年12月
 借款契約条件 金利2.5%、返済30年（うち据置10年）、
 一般アンタイド（コンサルタントは部分アンタイド）
 貸付完了 2001年12月



外部評価者 原口孝子（グローバル・リンク・マネージメント(株)）
 現地調査 2003年6月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに農学部等の施設建設、敷地整備、機器および関連備品の購入等が行われ、機器選定の専門家派遣等の技術支援も行われた。また、期間および事業費もほぼ計画通りであった。学生数は、計画を下回ったものの、事業実施前の1994年と事業実施後の2002年を比較すると、農学部は985人から2,299人へと2.3倍に、林学部は798人から1,407人へと1.8倍増加した。一方、新規開設の理学部の学生数は、計画値であった250人を上回る465人（02年）となっている。また、農学部と林学部で1学科ずつ増設したほか、外部機関（他大学など）との共同研究プログラム数も00年以降増加しており、本事業の対象機器を利用した研究プログラムは合計9件であった。熱帯雨林地域における天然資源の開発と利用の促進については、本事業の対象機器を活用した社会林業プログラム等によってインパクトの発現が期待される。環境保全については、本事業完成後に入学

した学生が、卒業後、環境に配慮した開発に貢献することが期待される。実施機関であるムラワルマン大学の技術、体制、財務面については問題はない。ただし、一定の運営・管理費を州政府補助金や授業料収入によって確保しているものの十分ではなく、若干懸念がある。これに対して、大学側は研究受託等により収入増加を図っている。今後、施設・設備の有効活用を一層進めるため、施設の学部間での共同利用や機器の利用、運営・管理に関する総合計画の策定などが望まれる。

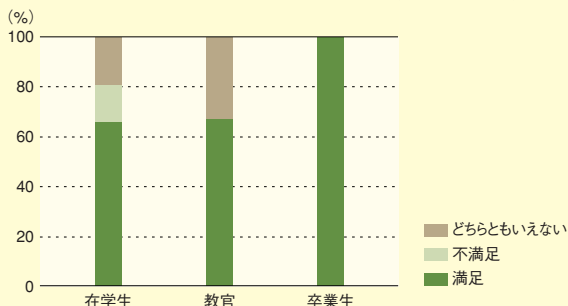
第三者意見

本事業の意義は、天然資源の豊かな東カリマンタンで人材育成と研究を担う高等教育機関を、地元のニーズにあわせて整備したことにある。

有識者 Ms. Armida Salsiah Alisjahbana

ワシントン州立大学博士課程修了（経済学）。現在バジャジャラン大学経済学部、経済開発学センター助教授。専門は財政、経済開発、教育経済、ミクロ計量経済。

本事業により整備された施設への満足度（受益者調査）



農・林・理学部の教官や在学生、卒業生に対し、本事業で整備された施設への満足度等について受益者調査を行ったところ、約7割の回答者が施設に満足しており、事業後、より多くの研究成果や精度



林学部TV付電子顕微鏡



休暇中でも学生が集まる農学部アグリビジネス研究室（コンピュータールーム）

の高い実験結果を出せるようになったとの声が聞かれた。新たな実験室で、週あたり平均、教官は15時間、学生は5時間過ごしている。また、多くの教官、学生が週1回以上供与図書を利用している。